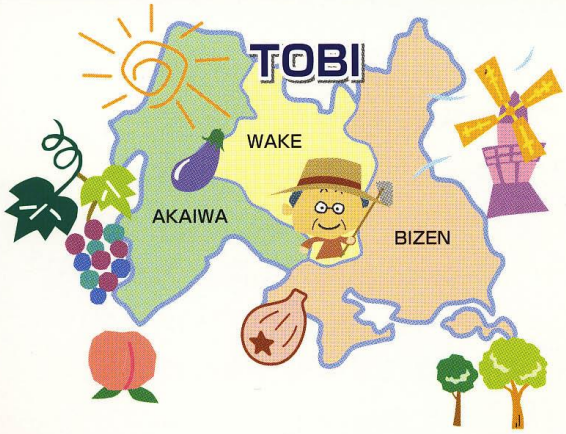
A G R I L A N D　T O B I



アグリランド とうび

BIZEN WAKE AKAIWA

もんげー岡山!

2017年度号

岡山県備前県民局　農林水産事業部

東備農業普及指導センター

目　　次

ももとぶどうの新品種の推進とブランディングによる特色ある
果樹産地の育成　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１

頑張る就農準備講座受講生！　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

就農はまず計画づくりから！　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３

水稲密播疎植栽培で苗箱数を削減　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４

ＩＣＴで田んぼの管理が進化　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

ＪＡ岡山東のなす生産者集う！　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

県育成りんどうの普及に向けた取組　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７

みんなで未来の牛飼いを応援！！　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８

「初心者講座～備前版～」初開催で６次産業化の基礎を学ぶ　・・・・・・９

青色申告で収入保険制度に備えよう！　・・・・・・・・・・・・・・・・・１０

表彰～受賞者の皆さん おめでとうございます～　・・・・・・・・・・・１１

新任農業士紹介　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１４

ももとぶどうの新品種の推進とブランディングによる特色ある果樹産地の育成

東備地域では、ももでおかやま夢白桃や千種白鳳、白皇（はくおう）、ぶどうでオーロラブラック、シャインマスカットなどの新品種を推進しています。ＪＡ岡山東モモ部会及びブドウ生産協議会では、これらの品種について新たなブランドとなるよう高品質生産に取り組み、販売を促進しています。

普及指導センターでは、さらなる品質向上を目指して、ＪＡ岡山東や関係市町と連携し、ブランド化へ向けた高品質生産への課題解決、栽培推進とマーケティング戦略の構築を支援しています。

１　もも

おかやま夢白桃と千種白鳳を、ＪＡ岡山東モモ部会の推進品種として栽培を推進し、現在の栽培面積は約 15ha になっています。また、平成 28 年に品種登録された岡山 PEH７号は、29 年 10 月に商標登録されて「白皇」となりました。28 年から３カ年計画で合計 750 本（5.4ha 分）の新植に取り組んでおり、現在までの累計導入本数は 650 本に達しています。これは県内の栽培本数の４割以上に相当し、白皇の県下一の規模になっています。

しかし、新品種には技術上の課題があり、対策が求められています。おかやま夢白桃は熟期の早まりによる清水白桃との収穫期の競合が、千種白鳳は落蕾症、裂皮など生理障害による収量の伸び悩みがそれぞれ問題になっています。

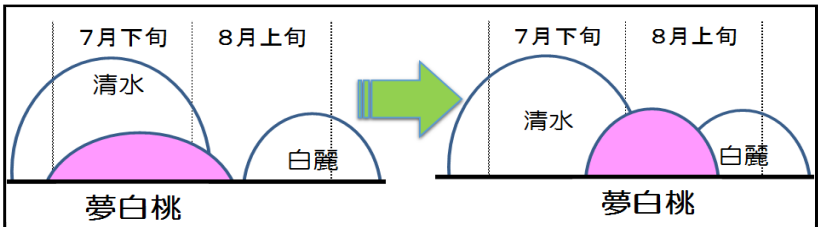
白皇説明会（８月 17 日）

（１）「白皇」の栽培推進

「白皇」はＪＡ岡山東を代表する主力品種へ育てていくことを目標にしています。２年後の平成 32 年には、選果場から共同出荷することが計画されており、その優れた食味に大きな期待が寄せられています。

（２）おかやま夢白桃の熟期前進化防止

収穫期の早まりの防止に取り組んでおり、追肥の施用や暗きょ設置による根域改善実証を進めています。平成 29 年度は収穫期が遅くなり、清水白桃との競合は少なく、出荷量が増大しました。



おかやま夢白桃熟期前進防止のイメージ

（３）千種白鳳（A-PEACH）の生産安定技術

A-PEACH とは、一定基準以上の大玉・高糖度に選果された千種白鳳です。平成 23 年に商標登録され、主に首都圏へ向けて出荷されています。A-PEACH の生産量を増大するために、落蕾症や裂皮、樹勢回復対策に取り組んでいます。今年の成果として、掛け袋の改善により品質のよい千種白鳳の生産が可能であることが判明しました。

２　ぶどう

（１）オーロラブラックの栽培技術の向上と高品質化

オーロラブラックの栽培技術の周知と品質向上を目的に、東備地域くだもの王国推進隊主催の展示ほを活用して研修会を実施しました。

着色安定を目指した新梢管理に生育促進技術を加えることで、需要期の収穫を狙うとともに、収穫果実の高品質化と販売単価の向上について実証しています。

展示ほでの研修会

（２）ピオーネ「誉乃 AKASAKA」の出荷拡大

赤坂ぶどう部会の「誉乃 AKASAKA」は、外観が良好で果粒重 16ｇ以上、糖度 17 度以上等の独自基準を満たしたハウスピオーネであり、大阪や京都、岡山などの市場に出荷されています。

「誉乃 AKASAKA」は、その品質の高さから需要はあるものの、梅雨時期に成熟する作型のために年次により出荷量が安定しません。そのため、栽培者の技術レベルを上げ、「誉乃 AKASAKA」の生産量を増やす対策を進めています。

選果の様子

今年は、出荷量が前年度の 0.8ｔから 1.6ｔに倍増しました。

（３）プレミアムシャインマスカット「煌乃（きらめきの）」のマーケティング活動推進

平成 25 年度から山陽ブドウ部会が､大粒で房形の良いシャインマスカットを独自規格で販売し、高い評価を受け、香港を中心に海外へ輸出されてきました。市場からのさらなる出荷量の増大要望を受け、今年からは「煌乃」とブランド名を一新し、ＪＡ岡山東ブランドとして生産・出荷に取り組んでいます。

今年、普及指導センターでは、房形向上のための実証ほの設置や市場との意見交換会の開催、他産地のシャインマスカット評価会などを行い、生産者の栽培技術向上や地域の新たなブランド「煌乃」のブランディングを支援しました。

シャインマスカット評価会の様子

頑張る就農準備講座受講生！

指導を熱心に聞く受講生

和気町では、ぶどうの新規栽培者の確保や栽培技術を高めたい意欲あるぶどう栽培者の技術向上を目的に、平成24年から和気町佐伯地区のピオーネほ場で就農準備講座を開催しています。今年の講座には、和気町内外から15名が参加し、年７回の講座を通じて芽かきからせん定までの栽培技術の習得に励みました。

講座では、時期に応じた基礎的な作業内容を確認した後、実際にピオーネの各作業を体験しながら、栽培上の疑問点を解決しました。また、８月末には、受講生が丹精込めて管理を続けたピオーネを収穫し、ＪＡ岡山東佐伯支店で房形や糖度、着色具合を確認し、今年の栽培の振り返りや来年以降の改善点を話し合いました。

受講生からは、「もっと勉強して良いぶどうを作っていきたい。」といった声もあり、ピオーネはもちろん、シャインマスカット等の栽培技術の向上も目指して意欲満々でした。

就農はまず計画づくりから！

就農は、農業に従事し、得られた利益で生活したり、翌年の生産に繋げることを意味します。自らが経営主となって就農する場合、次の７つの視点から計画を作成し、実効性を確認してみましょう。

・What	：何を行うのか？
・Why	：なぜ、その課題に取り組むのか？
・When	：いつから始めて、いつまでに終わらせるのか？
・Who	：誰（私？）が（誰と）取り組むのか？
・Where	：どこで取り組むのか？
・How	：どのようにして取り組むのか？
・How much	：どのくらいの予算で取り組むのか？

これを５Ｗ２Ｈといい、行動計画の作成や情報伝達のポイントを整理する際に活用します。How many（どのくらいの量を作るのか？）を入れて確認することもあり、これは５Ｗ３Ｈといいます。

計画づくりができ、実効性を確認したら、次は実行です！

実行中も時折立ち止まり、次作に向け５Ｗ２Ｈを活用して見直してみましょう。

水稲密播疎植栽培で苗箱数を削減

担い手の規模拡大のための省力・低コスト技術として注目されています。密播育苗と疎植栽培を組み合わせることで、苗箱数を大幅に減らすことができます。

〇作業上の留意点

１箱当たりの播種量が多く苗の老化が早いため、育苗日数を少なくし、計画的に播種します。

既存の田植機では播種量を 200ｇ／箱程度までとします。

田植機の横送り回数と縦送り量を調整し、苗の掻き取り量を減らします。

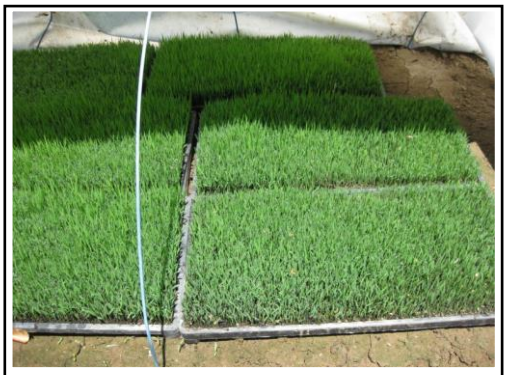
植え付け時あるいは植え付け後に深水になると、欠株が増加します。

品種や地域、地力等を考慮した栽植密度とします。

〇本年度の実証結果

場所：和気町佐伯　　品種：アケボノ　　移植：６月 20 日（密播苗対応田植機）

密播疎植区、密播区ともに慣行区より収量はやや低くなりましたが、10ａ当たりの苗箱数は慣行区の 13.5 箱に対して密播疎植区では 7.7 箱に削減できました。



密播苗（播種９日後）

移植作業

密播苗（移植当日）

密播疎植区（７月 21 日）

試験区	播種量 催芽もみ（g/箱）	育苗日数（日）	栽植密度 条間（cm）	栽植密度 株間（cm）	苗の掻取量 横送回数	苗の掻取量 縦送量（mm）	使用苗箱数/10ａ	植付本数（本/株）	欠株率 7月10日（%）	稈長（cm）	穂長（cm）	穂数（本/㎡）	精玄米重（kg/10a）
密播疎植区	300	15	30	26	30回	7	7.7	4.8	2.0	89	19.5	343	531
密播区				18			10.3	4.9	1.1	90	20.0	374	537
慣行区	150	26			26回	11	13.5	3.8	2.9	91	20.8	355	580

ＩＣＴで田んぼの管理が進化

ＩＣＴ（情報通信技術）を利用した正確で省力的なほ場管理を目指す動きが出てきました。パソコンやスマートフォン、各種機器等を組み合わせ、リアルタイムに知りたいデータを取り出したり、記録を蓄積して改善に役立てたり、農薬散布が楽になるなど、いろいろな効果が出ています。

活用事例１：ドローンによる農薬散布の省力化

ドローンによる水稲出穂前の防除

【実施農家のコメント】

・ブームスプレイヤーに比べて扱う液量が減るため、希釈用の水を用意するのが楽である。水稲・麦の液剤防除で活用している。

・自分で散布できるため、適期防除がしやすい。ラジコン感覚で操作できる。（必要な手続き等あり）

・まとまった面積がなく、他の人へ防除を頼みづらいという悩みから解放された。

活用事例２：ほ場生産管理システム（※）を使った作業管理

ほ場を色分けして１筆ごとに作業管理

収穫しながらほ場ごとの収量・食味関連データを収集（専用のコンバイン）

【実施農家のコメント】

・各自が持つスマートフォンに作業指示や作業場所が表示され、作業指示者とオペレータ間の意思疎通がスムーズになり、正確に作業ができるようになった。

・管理するほ場が増えても１筆ごとの記録がきちんと残るため、消費者等に対してきちんと管理していることが説明でき、「安全・安心の見える化」につながる。

・導入したシステムでは、専用のコンバインを使って収穫しながら１筆ごとの収量や食味関連データ（タンパク質含有率）が測定できるため、収量・品質の向上に役立っている。

※ほ場生産管理システムにはいろいろなタイプがあり、価格や機能が異なります。

ＪＡ岡山東のなす生産者集う！

６月 27 日、ＪＡ岡山東は夏秋なす産地の活性化と管内各産地の技術向上を図ることを目的に、生産が最も伸びている和気産地の３ほ場で現地研修会を開催しました。

ＪＡ管内には夏秋なすの産地がいくつかありますが、管内全体の生産者を集めての現地研修会は今回がはじめてでした。当日は生産者 29 名とＪＡ職員等 15 名が参加しました。

和気町のなす部会長と普及指導センターが見学ほ場の栽培概要を説明しました。また、見学ほ場はテーブル整枝とＶ字４本整枝、６本整枝という異なった整枝法で管理されており、それぞれの生産者が品質や作業性などにあわせて、創意工夫を凝らしている状況を研修しました。

参加した生産者からは、「参考になる良い研修会だった。今後もこのような研修会を実施してほしい。」という声が聞かれました。また、後日、再び見学に訪れた生産者もありました。

栽培概要の説明

テーブル整枝

６本整枝

会場となった和気町佐伯地区は、新規就農者が夏秋なす栽培を開始したり、既存の生産者が作付けを拡大するなどにより、平均作付面積が１戸当たり 10ａを超えており、備前市など周辺にも夏秋なす栽培が広がっています。

普及指導センターは、ＪＡと協力して夏秋なすを広域推進品目に位置づけて産地全体の活性化に取り組みます。

県育成りんどうの普及に向けた取組

普及指導センターは、農業研究所が育成したりんどう新品種の地域での適性を確認し、普及を図るために実証ほを設置しています。

おかやま夢りんどうとして、早生１、２号、中生の３品種が現在栽培されていますが、継続的に出荷できないという課題がありました。そこで、作期拡大のため、６月下旬から７月上旬咲きの岡山極早生１号と２号、及び８月下旬から９月上旬咲きの中生９号、10 号の試作を始めました。６月上旬に定植し順調に育っています。これにより、おかやま夢りんどうの６月下旬から９月下旬までの切れ目のない出荷が可能になります。

また、研究所では白やピンクといった新品種の育成も行っており、今後、さらにバリエーションが増えると思われることから、いち早く実証展示を行うことにしています。

〇高品質なりんどうが生産される東備地域

今年は花き共進会が夏（７月 18 日～20 日）に開催され、東備地域（和気町）から出品されたおかやま夢りんどう早生１号が見事奨励賞に選ばれました。県北地域に比べると、りんどう栽培は気温が高いため不利になることが多いのですが、非常に高品質なものが出品されました。これを機に、栽培意欲が高まり産地が発展することを期待しています。

普及指導センターとＪＡ岡山東では、りんどう栽培者を募集しています。標高 300m以上で、水の便の良い水田で転作作物をお探しの方はご一報願います。

中生９号の生育状況

共進会に出品されたりんどう

みんなで未来の牛飼いを応援！！

東備畜産研究会（会員 10 名）では、地域内で生産される資源（ワイン製造粕、稲ＷＣＳ、稲わら、麦わらなど）の利活用や遊休農地での和牛放牧など、飼料コストの低減や効率的なほ場管理による収益性の向上を目的に活動しています。

今年、会員である県立瀬戸南高等学校（以下「瀬戸南高校」）が、平成 29 年９月に宮城県で開催された全国和牛能力共進会（以下「全共」）の復興特別区、高校の部の岡山県代表として出品しました。その際、東備畜産研究会では、会員農家からの寄付と備前県民局の補助事業を活用し、瀬戸南高校の出品支援に取り組みました。

東備地域からは共進会への出品経験がほとんどないことから、牛の手入れ道具や生徒の旅費などの出品支援とあわせて、会員を対象に牛の調教や削蹄等の研修会も開催しました。

削蹄研修会

全共本番で、瀬戸南高校は体型審査で堂々の手綱さばきを見せて上位６位に入り、取組発表とあわせた総合評価では優良賞でした。上位５位には入りませんでしたが、審査委員長の講評の中で、「特筆すべきは、瀬戸南高校の調教が素晴らしかったこと。牛が微動だにしない。」と称賛され、岡山県出品団から大喝采をうけました。

今回の全共出品によって瀬戸南高校の生徒達が畜産業により一層興味を持ち、将来の畜産業を支える担い手に育っていくことが期待されます。

全共最終審査

瀬戸南高校の出品チーム

また、研究会は、昨年に引き続き 11 月に開催された「あかいわ祭り」に出展し、「東備ワインビーフ」の試食・販売によるＰＲや、赤磐市で山地酪農を継承した若い就農者への経営の安定支援を 26 年から県や市町、ＪＡ等の関係機関とともに行っています。

あかいわ祭りに出展

就農者への経営安定支援

「初心者講座～備前版～」初開催で６次産業化の基礎を学ぶ

備前地域では、これまでに６次産業化で総合化事業計画（国の認定）を 29 経営体が受けています。認定を受けることで、専門家の指導を受けたり、各種展示会や商談会へ参加する機会が増える等のメリットがあり、ひいては農業経営の安定化につながります。

普及指導センターでは、備前広域普及指導センターと合同で、６次産業化を目指す農家を掘り起こし、取り組む経営体を育成するため、初心者を対象とした「６次産業化初心者講座～備前版～」（３回講座）を初めて企画・募集し、20 名の参加がありました。

１回目は、９月に(一社)岡山県農業開発研究所で開講しました。テーマを「６次化商品を作ってみよう」とし、「６次化商品を作るための基礎知識」と「黄金桃のシラップ漬」、「桃ゼリー２種」の加工実習を行いました。参加者のほとんどが農産加工は初めてであり、慣れない手つきで実習に取り組みましたが、加工品が出来上がると、あちこちから歓声が上がりました。

２回目は 10 月に「商品の魅力が伝わる商談シートを作ろう」を、３回目は 11 月に「成約率の高い商談をしよう」をそれぞれテーマとし、備前県民局でＤ＆Ｍ　SOLUTION 代表の高橋志織氏を講師に、商談を行う際に必要となるシートの作成や成約率の高い商談のポイント等について演習も含め指導を受けました。また、各講座後には希望者の個別相談を行い、相談者の希望や課題等を県関係者が聞き取りました。

今回の講座を契機に、受講者が６次産業化へ向けて第一歩を踏み出すことが期待されています。

加工実習で桃の皮をむく受講者（１回目）

商談シートを発表する受講者（２回目）

模擬商談演習をする受講者（３回目）

個別相談

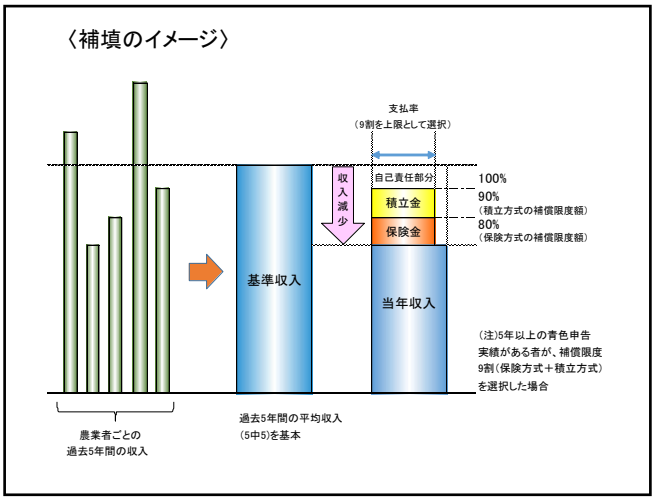
青色申告で収入保険制度に備えよう！

従来の農業共済制度や野菜価格安定制度、収入減少影響緩和対策（ナラシ対策）等に加え、平成 31 年から「収入保険制度」が始まります。この制度は自然災害に加え、価格低下など農業者の経営努力では避けられない収入減少を補償するものです。

〇対象者は？

青色申告（簡易な方式を含む）を行い、経営管理を適切に行っている農業者（個人・法人）です。

青色申告を５年間継続している農業者が基本とされますが、青色申告の実績が加入申請時に１年分あれば加入可能です（補償限度額は申告実績が５年になるまで徐々に引き上げられます）。



〇対象収入は？

自ら生産した農産物の販売収入全体が対象となります。加工品は原則として販売収入に含まれませんが、所得税法上の農業所得として申告されている精米、もち、乾しいたけなどは含まれます。なお、肉用牛、肉用子牛、肉豚、鶏卵は畜産経営安定対策で措置されているので対象外です。

〇補償内容は？

（１）補償限度額及び支払率

当年の収入が農業者ごとで設定された基準収入の９割水準（補償限度額）を下回った場合に、下回った額の９割（支払率）の補塡金が支払われます。なお、補償限度額及び支払率は複数の選択肢が設定されています。

（２）補塡方式

「掛捨ての保険方式」と「掛捨てとならない積立方式」（選択可）の組合せで補塡されます。

〇保険料・積立金

保険料・積立金は全経営体共通で設定され、保険料の 50%、積立金の 75%が国庫補助を受けられます。

＜収入保険制度に関するお問い合わせ先＞

東備農業共済事務組合

〒709-0451　和気郡和気町和気 438 番地 10　　電話（0869）92－0404

わが家の経営状況を把握するためにも複式簿記を進め、青色申告に活かしましょう。また、収入保険制度は、その他の補填制度とは重複して加入できないので、どの制度が自分の経営に合っているのかをよく検討し、経営安定のために上手に活用しましょう。

表彰
～受賞者の皆さん おめでとうございます～

平成 29 年度岡山県農林漁業功労者表彰　知事賞
内山 宗利（和気町）

平成 23 年から和気町で水田での大規模野菜産地育成に部会長として取り組まれ、28 年には出荷量と販売金額で県下最大の産地に成長しました。

また、産地の担い手確保・育成にも取り組まれ、５名の新規参入者や毎年２～３名の新規栽培者を確保し、生産拡大に寄与されました。

平成 29 年度岡山県農林漁業功労者表彰　部長賞
服部 雄二郎（和気町）

38 年前に営農を開始し、吉井側沿いの潅・排水良好で、ほ場整備された好適な水田条件を活用し、地域で先駆的にハウスでのチンゲンサイの周年栽培と水稲・麦の２毛作栽培を組み合わせ、雇用労力を活用した大規模複合経営を確立されました。また、チンゲンサイで２株を詰めて 350ｇとする出荷規格を考案され、現在はこの規格が県内外に普及しています。

平成 29 年度矢野賞
大森 啓二朗（赤磐市）

２年間のアメリカでの農業研修を経て、自ら農地の確保に努力し、地域初の新規参入者として平成 15 年に就農されました。

就農後は作型を組み合わせ、ピオーネの長期出荷を実現させるとともに、赤坂地域のブランドピオーネ「誉乃 AKASAKA」を出荷するため、高品質ピオーネづくりに精力的に取り組んでおられます。また、ＪＡ岡山東赤坂ぶどう部会販売副部長兼検査員として品質検査を担い、今後の部会を担う若い力として期待されています。

さらに、青年農業者クラブ活動では地方協会長を務め、地元小学生を対象に食農教育に力を入れ、農業の魅力発信に尽力されています。

平成 28 年度農山漁村男女共同参画優良活動表彰　農林水産大臣賞
森安 かんな（備前市）

平成 29 年３月７日、東京大学安田講堂で森安かんな氏（岡山県農業士。備前市で水稲、軟弱野菜作経営）が、農山漁村男女共同参画優良活動表彰で農林水産大臣賞を受賞されました。

森安氏は、農業大学校卒業後に夫とともに就農し、普及指導センターからの勧めもあって家族経営協定を締結しました。今回の受賞は、夫婦で部門管理体制を取っていること、地元集落営農組織と連携し農産物の有利販売を行っていること、アヒル農法で農薬を使用しない農業を実践していること、国の農業女子プロジェクトにいち早く参加するほか、「おかやま農業女子」を立ち上げ、県内の農業女性の交流活動を展開していることなどの功績が認められたものです。

今後も地域の担い手として、また「おかやま農業女子」など各組織の活動を通じ、女性の立場からの情報発信や地域活性化に活躍されることを期待します。

各種県共進会受賞者
＜平成 29 年度岡山県シャインマスカット、マスカット・オブ・アレキサンドリア共進会＞
・シャインマスカットの部

【農林水産大臣賞】
本郷　祐希（赤磐市）

【岡山県知事賞】
是友　隆行（赤磐市）

【岡山県農業協同組合中央会会長賞】
苅田　護（赤磐市）

【うまいくだものづくり推進本部長賞（優秀賞）】
岸本　和也（赤磐市）
井本　俊充（赤磐市）

【うまいくだものづくり推進本部長賞（奨励賞）】
近藤　眞琴（赤磐市）
服部　邦彦（赤磐市）

（後列左から　近藤さん、服部さん、井本さん）
（前列左から　是友さん、本郷さん、苅田さん、岸本さん）

＜平成 29 年度岡山県花き共進会＞

【岡山県花き生産協会会長賞】
延原　重徳（和気町）

＜平成 29 年度おかやま元気ベジタブル共進会（夏秋なすの部）＞

【最優秀賞（岡山県知事賞）】
鈴木　剛（和気町）

【優秀賞（全農岡山県本部運営委員会長賞）】
大田垣　多一郎（和気町）

【優良賞（全農岡山県本部長賞）】
吉原　丈夫（和気町）
近藤　勇（赤磐市）
米谷　昇（和気町）

【奨励賞（全農岡山県本部夏秋なす委員長賞）】
森　俊輔（新人賞）（和気町）
内山　宗利（和気町）
戸川　秀紀（赤磐市）
藤原　実（新人賞）（和気町）

（左から　戸川さん、鈴木さん、内山さん、吉原さん、大田垣さん、藤原さん）

新任農業士紹介

氏　　名　　岩川　美紀
住　　所　　赤磐市西中
経営作目　　果樹（もも）

１　経営面での取組み

桃農家の３代目。父の急死後 60ａの桃園を引き継ぎました。「食の安心、安全」を基本に、低肥料で除草剤を使わず、草生栽培で「桃本来の持つ力」をフルに活用して作っています。

行政や専門家の力を借りながら、いかに商業ベースで生産し、流通させるかが今後の課題です。

２　農業士としての抱負

「楽しい、儲かる」農業を目指し、後継者だけでなく、新規就農者が「農業を職業として取り組める」様にしたいです。

女性農業士の連携を強化し、「女性目線での農業」を進化させたいです。

氏　　名　　安井　正
住　　所　　赤磐市穂崎
経営作目　　水稲、大豆、麦

１　経営面での取組み

法人化し６期終わりました。様々な専門家の方々のご助力があり、公団体よりのご助言もあり、やってまいりました。一重に皆様のお蔭です。

米麦は難しいとことごとく言われていますが、グローバル化かつ、ＴＰＰへの加盟、関税撤廃、ＷＴＯからの指導など土地利用型の大きな転換期がやってまいりました。その大きな荒波を乗り越えるべくなお一層の努力、精進をしてまいります。今後ともよろしくお願いいたします。

２　農業士としての抱負

優れた経営と後進の指導をする重責を担う農業士を拝命し、身の引き締まる思いです。既に就農して活躍している若い農業者に対しての助言などを行っており、農業・農村の活性化・発展に大きな役割を果たすことを求められていると痛感しております。

諸先輩方を見習い、かつ自分なりに岡山県の農業発展のために尽力してまいる所存です。

岡山県備前県民局農林水産事業部

東備農業普及指導センター

〒709-0492
岡山県和気郡和気町和気487-2（備前県民局東備地域事務所2F）
担い手・農産班　　0869-92-5176
園　　芸　　班　　0869-92-5177

FAX　　0869-92-0524
E-mail　tobi-fukyu@pref.okayama.lg.jp

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/89/

備前広域農業普及指導センター

（東備地域の経営・地域資源・花きについてはこちらへ）

〒709-8604
岡山市北区弓之町6-1（備前県民局3F）
革新農業推進班　　086-233-9845、9850

FAX　　086-224-1187
E-mail　oka-fukyu@pref.okayama.lg.jp

ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞｱﾄﾞﾚｽ
http://www.pref.okayama.jp/soshiki/79/